ボーナス 1024 倍

京都大学工学部 1 回生　中口風斗

パパにボーナスが入ったことを知ったのび太は、新しい自転車を買う約束を果たしてもらおうとする。しかし家計が苦しいことを理由にしてパパは曖昧な態度を取り、のび太は約束を破られてしまう。シュンとするのび太は自分じゃどうしようもないとドラえもんに相談する。悩みに悩んだ結果、ドラえもんはボーナスを銀行に預けタイムマシンで今すぐ 100 年後の未来に取りに行くという妙案をひねり出す。すぐに実行に移すが、引き出したお金は当然現代のそれとは違っていて……。もう少し話はつづくが、オチまで書いてしまってはつまらないので、ここでは省略する。気になる人は是非読んでもらいたい。

この「ボーナス 1024 倍」は「ドラえもん」のエピソードの一つであり、小学四年生 1973 年 12 月号に掲載されていた。ドラえもんの連載が始まったのが 1970 年 1 月号であるから、このエピソードは比較的初期のものである。ジャイアンの気まぐれな行動に振り回されたり、のび太がひとりよがりな行動をしたりしない、当たり障りのない話である。

「あんなゆめ　こんなゆめ～みんな　かなえてくれる」という歌詞のとおり、お金が欲しいというありがちな「夢」を叶えてくれるエピソードである。ただし、この作品には大きな特徴がある。ひみつ道具がタイムマシンしか登場しないのだ。多くのエピソードでは新しいひみつ道具をきっかけとして話が展開されていく。タイムマシンやタケコプター、どこでもドアといった頻繁に使われる道具は補助的な役割を果たすに留まりがちである。タイムマシンのような存在が主役となっているのは珍しい。ちなみに、ポケットから道具を出す描写がないため「ふしぎなポッケで　かなえてくれる」という歌詞には反している。

このエピソードには「定期預金だと、10 年で倍くらいになる。」というドラえもんの発言がある。単純に計算して 100 年後には 1024 倍であり、この数字がタイトルになっている。さて、2^1/9＝1.080059……であることから、複利法が適用されているとすると金利は 8%と計算される。「そんなバカな…高すぎる。」という金利だが、1973 年当時ではそう珍しい数字でもなかったようだ。現代では高くても 0.3%程度である。10 年預けても 1.027 倍にしかならない。倍になるのは 232 年後、1024 倍になるのはなんと 2314 年後である。子孫を残せばできない訳ではないが、やってみようとは思わないだろう。先程「夢」を叶えてくれる、と書いたがそもそも 8%という金利が今の我々にとっては「夢」のような数字である。

地に足をつけてちゃんと稼ぐべきなのだろうが、「働きたくないけどお金が欲しい。」というのは誰しもが抱く夢だ。ドラえもんにもお金にまつわるエピソードは多くある。その中でもこの「ボーナス 1024 倍」はタイムマシンというひみつ道具には勿論夢があるが、時代背景にも夢がある。今とは違う日常、空気感に思いをはせながら読んでみてほしい。連載当時には不可能であった、今の我々だからこそできる楽しみ方である。

昔は「あんなに好きだったのに、今はもうドラえもんなんて読まないな。」という人は是非時々ドラえもんを思い出してみてほしい。新しい世界が待っているだろう。